Autumn 2026

Innovation
Airbus Japan Newsletter

AIRBUS

最新貨物機 A350F、初飛行に成功

エアバスの最新貨物機 A350F が初飛行を実施しました。

特別な飛行試験機器を搭載した同機は、高度 2,5000 フィート（7,620 メートル）に到達し、4 時間 10 分にわたって飛行しました。操縦はエアバスのフライトテスト・クルーが担当しました。

エアバスのラース・ワグナー民間航空機事業 CEO は、以下のように述べています。「今回の初飛行は、A350F にとっても世界中のお客様にとっても極めて重要なマイルストーンとなります。非常に大きな成功を収めている A350 ファミリーの最新開発機である A350F は、他にはない運用の柔軟性、燃費性能、そして航続距離を兼ね備え、航空貨物市場でゲームチェンジとなる存在です。この偉業を達成したすべてのチームの素晴らしい献身と努力を心から誇りに思います」

今回の初飛行において、クルーは基本的な耐空性や飛行特性の確認、主要システムが想定通りに機能しているかの検証を中心とした試験を実施しました。これにより、9 か月以上に及ぶ飛行試験がスタートします。

世界で最新の貨物機として設計された A350F は、世界的な航空貨物市場のニーズに対応します。最大 8,700 キロメートルの航続距離と最大 111 トンの有効搭載量を備えており、運航会社は長距離国際路線に投入することが可能です。70% 以上に先進材料を使用している A350F は、競合機と比較して最大離陸重量を 46 トン軽量化しています。



9 月に初飛行した A350F

最新のロールス・ロイス製トレント XWB-97 エンジンを搭載し、同クラスの競合機と比較して、燃料消費量および CO_2 排出量を最大 40% 削減します。

同機は、国際民間航空機関（ICAO）の最新 CO_2 排出基準を完全に満たした初の新型貨物機で、大型貨物機市場において最大 59% のシェアを占めています。



4 時間 10 分にわたり飛行試験を実施

contents

最新貨物機 A350F、初飛行に成功
ANA、新たなパイロット訓練プログラムでエアバスと提携
AATC、A220 シミュレーターを導入へ
アジア太平洋地域が世界の航空市場を牽引
SMBC アビエーションキャピタル、A320neo ファミリーを 100 機発注
アボロン、A330-900 を 35 機、A320neo ファミリーを 75 機発注
アビエーション・キャピタル・グループ、A320neo ファミリーを 75 機発注

ANA、新たなパイロット訓練プログラムでエアバスと提携

エアバスと全日本空輸（ANA）は、次世代パイロットの育成に向けた包括的な飛行訓練契約を締結しました。これにより、両社が 40 年近くにわたり築いてきた戦略的パートナーシップがさらに拡大します。

高度なスキルを持つ民間パイロットへの需要が高まる中、この契約に基づきエアバスは、ANA グループおよびパートナー・キャリアの訓練生を対象としたパイロット養成プログラムを提供します。この訓練プログラムはポルトガルのポンテ・デ・ソルに置かれたセブンエア・アカデミーで実施されます。操縦経験のない者がライセンス取得に必要なあらゆる訓練を提供しパイロットへと成長できるよう支援します。19 名の訓練生が 2026 年後半に訓練を開始する予定です。

訓練プログラムをエアバスのネットワークに組み込むことで、各航空会社のパイロット訓練生はエアバスの飛行訓練の概念、手法、および最新の学習ツールに基づいた統一カリキュラムを学ぶことになります。

ANA の土田岳史 執行役員 フライトオペレーションセンター副センター長は次のように述べています。「エアバスが提供する最新のパイロット訓練プログラムを導入できることを大変嬉しく思います。このプログラムには安全に関する最新の知見が取り入れられており、エアバスが開発した能力ベースの訓練・評価システム『CBTA』という概念に基づいたものです。訓練生は複雑な運航環境に対応し、円滑にフライトを管理するために不可欠な能力を身につけることができます」

エアバス・トレーニング・サービスのオペレーション・ビジネスディベロプメント総括責任者のトーマス・アウディアは次のように述べています。「ANA は、安全性、信頼性、そして卓越した訓練への妥協なき姿勢で世界的に知られています。世界でもトップクラスの航空会社である ANA が、次世代パイロットの育成をエアバスに委ねてくださることを大変光栄に思います。ゼロから養成を行うエアバスの訓練プログラムは、初期段階でのコア・コンピテンシーの育成に重点を置いています。世界標準となるエアバスの訓練プログラムを活用することで、初飛行から実際の飛行にいたるまで、一貫した最高水準の訓練を保証します」

飛行訓練に関する取り組みは、世界の航空業界にとって極めて重要になっています。エアバスの最新「グローバル・サービス予測」によると、今後 20 年間で 66 万人の新規パイロットが必要になると予測されています。今回の契約を通じエアバスと ANA は、日本の航空業界において質の高いパイロットを確保する取り組みを進めていきます。



ANA と次世代パイロットの育成に向けた訓練契約を締結

エアバス・アジア・トレーニング・センター、A220 シミュレーターを導入へ

エアバスとシンガポール航空の合弁会社であるエアバス・アジア・トレーニング・センター（AATC）に、アジア太平洋地域向けとなる A220 のフルフライトシミュレーター（FFS）を導入します。

A220 シミュレーターは 2027 年第 4 四半期に運用開始が予定され、最新世代の単通路型である A220 に対する、アジア太平洋地域におけるパイロットおよび整備トレーニングの需要増加に対応します。



アジア太平洋地域で高い需要のある A220

A220 トレーニングサービスは、エアバス公認の A220 トレーニングプロバイダーであるフライト・トレーニング・アライアンス（FTA：CAE とルフトハンザ・アビエーション・トレーニングの合弁会社）とのパートナーシップのもとで実施されます。本合意に基づき、FTA がフルフライトシミュレーターを設置し、AATC が運営およびトレーニングを提供します。

AATC と FTA は、認定された A220 飛行教官および運用技術者のチームとともに、A220 の飛行乗務員向けタイプレーティング（機種限定資格）およびリカレント訓練（再飛行訓練）の包括的なパッケージを提供します。

セレター・エアロスペース・パークに位置する AATC は、エアバスのグローバルネットワークにおいて最大級の飛行乗務員トレーニングセンターの一つです。10 基のフルフライトシミュレーターを備え、現在製造されているすべてのエアバス機のタイプレーティングおよびリカレント訓練コースを提供しています。

アジア太平洋地域が世界の航空市場を牽引

エアバスは、[1]アジア太平洋地域における最新の航空機市場予測「グローバル・マーケット・フォーカスト 2026-2045」(GMF) を発表しました。それによると、アジア太平洋地域は今後 20 年間、世界の航空市場が成長するうえで主要な牽引役となります。

同地域の旅客輸送量は年平均成長率（CAGR）5.1% で成長すると予測されており、世界平均の 3.9% を上回り、予測期間中に輸送量は 2 倍以上に増加する見込みです。アジア太平洋地域では、この期間に 19,120 機の新規旅客機が必要になると予測されており、これは同期間における世界の新規航空機需要 42,060 機の 45% に相当します。

今後 20 年間、アジア太平洋地域で必要となる新造航空機 19,120 機のうち、3 分の 1 は既存機の更新向け、残りは拡大する需要に対応するためのものです。この成長を支えているのは、この地域における堅調な経済成長です。アジア太平洋地域の中間所得人口は 2045 年までに 30 億人に達すると予測されています。急速な都市化に伴い、航空機による移動は社会的にも経済的にも不可欠なライフラインとなりつつあります。

アジア太平洋地域はワイドボディ機の引き渡し数の大部分を占め、3,420 機の新規需要が見込まれています。これは新規ワイドボディ機全体のほぼ半数に相当します。

エアバスは航空会社のワイドボディ機に対するニーズに A330neo と A350 ファミリーで応えています。この 2 つのファミリーにより、エアバスは過去 3 年間で同地域におけるワイドボディ機の受注残の



アジア太平洋地域では 20 年間で 19,120 機の新規旅客機が必要

50% を占めるまでに成長し、特に A350 は同地域の航空会社にとって長距離大陸間路線における最適な機種として確固たる地位を築いています。エアバスの最大機種となる A350-1000 は 777-300ER の代替機として導入数を拡大させています。

アジア太平洋地域における航空需要は単通路機が占める割合が大きく、2045 年までに 100 ～ 244 席の単通路機が 15,700 機必要になると予測されています。この需要は機材の更新と長期的な輸送能力の増大に牽引され、国内および地域内路線が継続的に拡大することを反映しています。

新たに建設される空港インフラに加え、A321XLR や A220 といった長距離向けの汎用型単通路機の開発により、航空機の接続性が向上しています。このため、新たな都市間の路線が開設され、従来の巨大ハブ空港を迂回して地方都市を結ぶことが可能になっています。

A220 は新たな小規模路線を開設する重要な機材として、すでに世界中で 400 以上の新規路線を創出しています。アジア太平洋地域においても A220 によって 800 以上の未就航都市の路線が開拓され、さらなる拡大の可能性を秘めているとエアバスは予測しています。

エアバスのアナンド・スタンレー アジア太平洋地域プレジデントは以下のように述べています。「アジア太平洋地域の路線網とその接続の仕方には変化が見られます。長距離路線が継続的に拡大しているのに加え、航空会社は従来の『ハブ・アンド・スポーク』を超えて地方都市を直接結ぶ分散型路線を構築しています。アジア太平洋地域の各社は最新世代の航空機を採用することで接続の方式を変えていき、同地域の長期的な経済繁栄を牽引します」

2026 年 8 月末時点で、アジア太平洋地域の 119 の航空会社が 5,000 機のエアバス機を運航し、シェアは 58% に達しています。また、約 3,500 機が今後引き渡し予定です。これは、100 座席以上を装備した航空機市場における受注残の 61% に相当します。

1 アジア太平洋地域における主要市場には、中国、インド、太平洋諸島、東南アジア、北アジアが含まれます。

SMBC アビエーションキャピタル、A320neo ファミリーを 100 機発注

SMBC アビエーションキャピタルが、65 機の A321neo と 35 機の A320neo を追加発注しました。

SMBC アビエーションキャピタルのピーター・バレット CEO は、「今回新たに発注を行ったことで、わが社の顧客である航空会社に対して、2030 年代半ばまで最新技術を搭載した A320neo ファミリーを継続的に引き渡すことができます」と述べています。「また、過去 25 年間にわたりエアバスと築いてきた強固なパートナーシップをさらに発展させられることを大変嬉しく思います。今回の受注は、A320neo ファミリーに対する長期的な需要を反映したものです。SMBC アビエーションキャピタルは航空会社を長期的にサポートし、絶えず変化する顧客のニーズに対応できる、航空ファイナンス・プラットフォームとしての地位を確立します」

エアバスのブノワ・ド＝サンテグジュペリ民間航空機事業営業担当上席副社長は、「SMBC アビエーションキャピタルとのパートナーシップはますます強固なものとなっています。A320neo ファミリーは、世界でリース機数が最も多い航空機であり、航空会社、リース企業、投資家にとってベンチマークとなっています。SMBC アビエーションキャピタルが A320neo ファミリーの追加発注したことを光栄に思います」と述べています。

「今回の追加発注は、航空会社が機材の拡大と更新を行うにあたって最も効率的な航空機であり、世界の市場における需要を反映しています」

SMBC アビエーションキャピタルは、A320 ファミリーの主要な顧客の一社であり、親会社である住友商事と合わせ、エアバスの全機種において 900 機以上を発注しています。



A320neo ファミリーを 100 機発注した SMBC アビエーションキャピタル

アボロン、A330-900 を 35 機、A320neo ファミリーを 75 機発注

国際的な航空機リース会社のアボロンが A330-900 を 35 機、A320neo ファミリーを 75 機の合計 110 機を発注しました。これにより、アボロンの A330-900 の総発注数は 114 機に、A320 ファミリーは約 650 機となりました。

アボロンのアンディ・クローニン最高経営責任者（CEO）は次のように述べています。「新型機に対する強い需要は引き続き続いており、今回の発注は当社の長期的な調達計画をさらに強固にするものです。これにより、今後 10 年にわたり航空会社の機材拡大および更新のニーズを支援する体制が整いました。航空業界の長期的な成長軌道を考慮すると、A330neo および A320neo 双方に対する需要は今後も堅調に推移すると見込んでおり、このたびの発注契約を通じてエアバスとの長年にわたるパートナーシップをさらに拡大できることを嬉しく思います」

エアバスのブノワ・ド＝サンテグジュペリ民間航空機事業営業担当上席副社長は次のように述べています。「今回の受注は A330neo および A320neo ファミリー双方にとって大型の案件です。当社の製品に引き続き信頼を寄せていただき感謝申し上げます。今回の発注により、アボロンは A330-900 を計 114 機発注したことになり、最大手リース会社としての地位を確固たるものにしました。また、リース業界から A330neo と A320neo が国内線から地域路線、長距離路線まで幅広い市場適合性と柔軟性を提供する機体として明確に評価されている証であり、両機に対する強い需要を裏付けるものとなりました」



合計 110 機を発注したアボロン

アビエーション・キャピタル・グループ、A320neo ファミリーを 75 機発注

アビエーション・キャピタル・グループ（ACG）が、A320neo ファミリーを 75 機発注する契約を締結しました。これにより、ACG による A320neo ファミリーに対する累計発注数は 190 機となります。

ACG のトーマス・ベイカー最高経営責任者（CEO）兼社長は次のように述べています。「私たちは、世界中の航空会社から高い需要のある、新技術を搭載した単通路型機に重点を置いた戦略を展開しています。当社の約 40 年の歴史の中でも最大規模となる今回の発注は、航空旅行の長期的な成長に対する確固たる自信を示すものであり、私たちが航空会社、航空機、そして資金を結ぶ重要な架け橋としての役割を担っている証拠でもあります」



A320neo ファミリーを 75 機発注した ACG

2026年度9月末時点の受注・引き渡し・運航機数

機　種	総受注機数	総引き渡し機数	運航機数
A220 / A318 / A319 / A320 / A321	21,542機	13,450機	11,918機
A300 / A310	816機	816機	205機
A330 / A340	2,382機	2,051機	1,541機
A350	1,624機	737機	736機
A380	251機	251機	193機
合計	26,615機	17,305機	14,593機

本ニュースレターの郵送をご希望されない場合は、お手数ですが utako.fujiso@airbus.com までご連絡いただけますようお願い申し上げます。